日本大学工学部
校友会報
第 55 号　平成4年3月1日

ごあいさつ(工学部長、校友会長)…… 2
平成3年度第34回通常総会報告……3～4
第11回母校を訪ねる会報告……5～6
校友レポート(佐藤久美子)……7～9
校友エッセイ(木村圭二、長林久夫)……10～11
若葉マークがんばり記(早乙女晴美)……12
情報学科について・事務局便り……13
同窓会・クラス会・支部総会……14～17
校友短信・キャンパスミニメモ……18～19
総会通知・課外活動……20

央莫竜峰(ヤンモーロン)北面主峰(6,060m)

中華人民共和国四川省西部の未登峰
日本大学工学部北桜会が山岳部創部40周年記念として登頂に遠征
(平成3年10月8日～11月21日)

ごあいさつ

日本大学工学部長

國分欽智

初めに工学部校友会32,000名の皆様にご健勝を心よりお喜び申し上げます。私達の工学部もいよいよ創立45周年を迎えます。大学の地方分散第1号と言うべき工学部の草創期は苦難の連続でしたが、昭和45年大学院工学研究科の設置後は順調な発展を遂げ、現在のすばらしい学園に成長しました。これひとえに校友の皆様の長年にわたる社会活躍の高い評価のおかげと感謝にたえないしだいであります。

昨年暮、世界はソ連邦の崩壊等々の激動で幕を閉じましたが、今年は経済大国に成長した我が国の国際貢献をめぐり、社会の変革はこれまで以上の速度で進行するものと考えられます。最も遅れていると言われる大学へも、改革の波がとうとうと押し寄せてきました。昨年7月大学設置基準改正の省令により、大学独自の努力によって、大学教育に個性と特色を創造することが求められました。後輩たちはこの魅力にひかれて進学してくることになります。正に平成5年度以降、18才人口の激減期を迎え、大学存亡の問題として学部長の今後の運営責任は重大であります。私は一昨年7月学部長に就任以来、これまでの工学部の運営を多方面から改革すべく、数々の施策を企画してきましたが、教職員の皆様のご理解とご協力により、そのすべてが順調に進行しましたことはまことに幸せであります。

さて「21世紀は情報化社会」とは、いまや、社会通念でありますが、工学部にも平成5年4月日本大学初の情報学科増設をめざし、着々とその準備を進めております。優秀な教授陣の確保、学科棟の建設、教育研究設備の充実には多額の資金が必要となりますが、万難を排してその認可に邁進するつもりであります。これによって優秀な情報専門技術者を世に送り出せるばかりでなく、全学科の工学基礎教育に情報学重視の特色を掲げることにより、日本大学理工系3学部のなかで工学部の存在を強く認識していただけるものと思います。また昨年2月には、多くの校友に長年慣れ親しまれた時計塔の管理棟が解体され、そこには今新管理棟の黒い鉄骨が隆々と青空にそびえています。7月には旧管理棟の2.5倍、床面積5,000㎡の6階建のビルが完成する予定です。完成の暁にはキャンパスの本館として、学生への事務サービスや教育・研究の運営・管理に、その機能をいかんなく発揮することになるでしょう。さらに情報学科が完成年度に達すれば、この本館を中核にして、工学部キャンパスを1学科1棟の構想で、再開発するマスタープランの検討も始まっています。この計画の実現には長年月を要すると思いますが、今後の熱っぽい議論が大いに期待されるところであります。

以上学部の近況についてご報告申し上げ、皆様の限りないご発展を心より祈念し、挨拶と致します。

日本大学工学部校友会長

半沢　忠

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まず会員各位のご健康とご繁栄を心からお喜び申し上げます。平素当会の運営などにつきましては、格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は昨年4月の総会に於て、はからずも武田前会長のあとをうけて、立派な伝統をもつ当校友会の会長の職を引継ぎ、身の引締まる思いであります。もとより浅学非才な私ではありますが、校友諸兄のご協力と役員のご支援により職務を全う致したく思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は国外にあっては湾岸戦争、ソ連の崩壊など世界史的に大変動があり、国内にあっては、いわゆるバブル経済の破綻などがあって、景気に陰りが現れてくる気配が見え、今後の経済的動向は楽観を許さないものがあります。更に加えて人手不足が深刻化し、企業を取り巻く環境はきびしいものと思われます。

一方教育関係に眼を転じてみるならば、科学技術の進歩や、社会の成熟化に伴い、大学に対するニーズはますます多様化、複雑化、高度化する傾向を加速し、大学が世界に通用する教育機関としての責務を果すためには、今以上に英知を結集し実行して行かねばならないと思います。しかし多様化する社会に対応して、教育研究条件を改善して行くためには、多額の資金が必要となります。現状資金面について、政府の補助金の抑制、削減がすでに実施され、学生数も平成4年の200万人をピークに18才人口が減少局面に転じるなど、やはりその陰りがみえてきております。

この様な背景にあって、校友会の前途は誠にきびしいものになるものと受けとめております。今後の運営については、役員の方々は勿論のこと諸先輩の方々とも相談しながら完遂して行きたいと思っております。本年は総合名簿の発行と東京において総会を開催することになっております。本会の使命である会員相互の親睦がはかられるよう努力してまいりますので、今後ともご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、校友各位の益々のご精進とご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

（工業化学科第6回卒業　パラマウント硝子工業㈱）

平成３年度第34回通常総会報告

第９代会長に半　沢　　忠氏(化６回)を選出

日本大学工学部校友会第34回通常総会は、平成３年４月20日(土)午後２時より日本大学郡山研修会館において開催された。

当日は、遠く北海道や九州、四国など全国各地から会員多数の出席があり大いに盛り上がりました。

総会は、橋本事務局長(建10回)の開会の挨拶のことばをもって始まり、次いで武田会長より挨拶があった。会長はこの中で、統一地方選挙の最中であり投票日前日

にあたっているにもかかわらず、遠方より、各支部より出席をいただいた御礼を述べたあと、昨年より新執行部の新体制で校友会を運営して来たことに対する皆様の賛同と協力に謝辞とご理解ある議事進行のお願いがあった。また、この一年間の交際費が予算を超過して決算となったことは、日大東北高校野球部の甲子園出場のお祝金出費、国分欽智(電１回)工学部新学部長が誕生しその祝賀会を催したこと、大学本部の総長に木下茂徳先生〔当時理工学部長、元工学部建築学科兼担教授)が就任されて種々の交際費の支出があったからであるとの報告があり、理解を求められた。その他、今年から入学式が東京で全学部統一入学式になり、郡山での工学部単独での入学式は行われないということで、校友会からの祝辞挨拶が今後なくなったこと、しかし入学生には準会員として、卒業生には正会員として、それぞれに記念品を差し上げ校友会の事業を続けてゆく旨挨拶があった。

ついで議長選出へと進行し、矢保敏之氏(建８回)が選任され、挨拶の後議事録署名人に三浦昌雄氏(土14

回)、福井均氏(土19回)、書記に渡澤正典氏(建14回)蔭山寿一氏(建28回)を選んでただちに議事に入った。議事は、

○ 報告第１号、平成２年度会務報告について
○ 承認第１号、平成２年度一般会計収支決算について
○ 承認第２号、平成２年度特別会計収支決算について

以上が一括上程された。報告第１号では、橋本事務局長より、会員の状況、会務の状況、財産の状況について概要説明報告があった。承認第１号、承認第２号は伊藤経理部長(電16回)より上程され、収支決算についての報告があり承認された。これらの予算運営の監査結果に対して、太田雄八郎氏(土３回)古橋栄吉氏(建８回)石井和樹氏(土13回)の各会計監査より、適正に運営されているとの報告があり拍手の中に承認された、つづいて、

○ 議案第１号、平成３年度事業計画について

は村田事業部長(土12回)より提案説明があった。この中

に平成４年度に予定されている会員総合名簿の発行について、今年度から準備に入る旨提案があった。また就職促進の援助についても学部との連携をとりながら検討実施してゆく旨提案があり、審議の結果議決された。

○ 議案第２号、平成３年度一般会計収支予算について
○ 議案第３号、平成３年度特別会計収支予算について
○ 平成３年度、平成４年版会員総合名簿発行事業特別会計収支予算について

が伊藤経理部長より一括提案され、概要の説明が行われた。審議の結果、意義なしの声と共に議決された。

以上をもって会議を終了した旨議長より報告があり、その他の質問があれば伺いたいとの提案がなされた。これに対し、武田会長より緊急動議があり審議することになった。緊急動議は、武田会長がこの総会の席上で会長の任を解いてほしいとのことであった。討議の結果本人の意志を尊重し会長職辞任を了承した。

後任には副会長の半沢忠氏(化6回)が推され、会長に就任、残期間の2年間を務めることになった。また役員人事については役員会に一任された。(半沢会長昇格に伴う副会長席は、当分の間空席とし役員がお互いに援助して会務を遂行することに理事会で決定)

その他一般質問では、校友会報の発行部数、会費未納者への取り扱い方、事業費の主な使途、会員名簿の編集方法などについての質疑応答があり、了解された。

以上で全ての審議事項は終了し議長はその任を解かれた。その後、船越北海道副支部長、古村東京支部長、

近藤東海支部長代理、牧野四国支部長代理、矢俣九州副支部長より各支部の近況報告と挨拶が行われた。

最後に半沢新会長が、武田前会長への労いおよびお礼の言葉ならびに今後の抱負について挨拶があった後、橋本事務局長の閉会の辞で総会は無事終了した。

その後校友会本部役員や他学部校友会長ならびに工学部長、工学部教職員の方々を来賓としてお迎えして、懇親会に移った。宴は続いたが校歌斉唱をもってお開きの締めとし、来年の東京会場での再会を約して散会した。

平成2年度一般会計収支決算書

歳　入

単位 円 △……減

款項		種目	予算額	決算額	比較増減
会費	1	終身会費	10,000,000	10,510,000	510,000
	2	入会金	10,000,000	11,550,000	1,550,000
		計	20,000,000	22,060,000	2,060,000
繰越金	3	前年度繰越金	6,754,943	6,754,943	0
		計	6,754,943	6,754,943	0
繰入金	4	運用財産より繰入金	0	0	0
		計	0	0	0
雑入	5	預金利子	40,000	698,210	658,210
	6	職員負担金	0	0	0
	7	名簿代金	0	0	0
	8	雑収入	5,057	1,621,000	1,615,943
		計	45,057	2,319,210	2,274,153
合計			26,800,000	31,134,153	4,334,153

歳　出

款項		種目	予算額	予算現額	決算額	比較増減
事務費	1	給料手当	4,350,000	4,350,000	3,842,446	△ 507,554
	2	保険料	315,000	315,000	304,099	△ 10,901
	3	交通費	700,000	700,000	628,000	△ 72,000
	4	旅費	50,000	50,000	25,380	△ 24,620
	5	交際費	400,000	812,250	812,250	0
	6	需用費	300,000	340,000	333,559	△ 6,441
	7	備品費	80,000	80,000	12,978	△ 67,022
	8	印刷製本費	280,000	417,915	417,915	0
	9	通信運搬費	270,000	435,300	434,873	△ 427
	10	修繕維持費	10,000	10,000	0	△ 10,000
	11	光熱水費	40,000	40,000	30,000	△ 10,000
	12	分担金	400,000	494,442	494,442	0
	13	雑費	275,000	205,000	35,485	△ 169,515
		計	7,470,000	8,249,907	7,371,427	△ 878,480
事業費	14	組織対策費	1,000,000	1,000,000	903,160	△ 96,840
	15	会報発行費	4,000,000	4,000,000	3,883,307	△ 116,693
	16	会員管理費	2,100,000	2,100,000	2,056,826	△ 43,174
	17	名簿作成費	500,000	500,000	398,365	△ 101,635
	18	下宿対策費	10,000	10,000	8,404	△ 1,596
	19	図書供与費	300,000	300,000	300,000	0
	20	式典費	2,100,000	2,100,000	1,980,594	△ 119,406
	21	母校訪問費	200,000	200,000	175,951	△ 24,049
	22	負担補助援助金	600,000	891,166	841,166	△ 50,000
		計	10,810,000	11,101,166	10,547,773	△ 553,393
会議費	23	総会費	600,000	600,000	533,135	△ 66,865
	24	役員会費	250,000	280,000	276,450	△ 3,550
	25	連絡協議会費	500,000	470,000	165,000	△ 305,000
	26	旅費	700,000	794,510	794,510	0
		計	2,050,000	2,144,510	1,769,095	△ 375,415
繰出金	27	職員退職給与特別会計繰出金	300,000	300,000	161,776	△ 138,224
		計	300,000	300,000	161,776	△ 138,224
積立金	28	積立金	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0
		計	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0
予備費	29	予備費	1,170,000	4,417	0	△ 4,417
		計	1,170,000	4,417	0	△ 4,417
合計			26,800,000	26,800,000	24,850,071	△1,949,929

歳入額　31,134,153円
歳出額　24,850,071円
差引残額　6,284,082円を翌年度へ繰越しとする。

財産の状況(平成3年3月31日現在)

一般会計	引当財産	運用財産	合計
6,284,082円	2,763,273円	18,881,718円	27,929,073円

「母校を訪ねる会」第11回目を開催

平成3年10月27日（日）、第11回母校を訪ねる会が催された。今回の対象は第19回卒業生（昭和46年3月卒）で、大学卒業後20年目の方々を対象として工学部と校友会が共催で行った。

昭和56年より始めたが、この間に出席された校友は、累計で882名となる。

当日は小雨で写真撮影は、恒例の銅像前ではなくて、体育館前となった。前日夜は5学科ともにクラス会が開かれ、女性の卒業生や、ご夫人の同伴もあって賑わった。

第11回母校を訪ねる会に参加して

山本博宣

平成3年10月26日の朝9時すぎの赤穂線で岡山へ行き山陽新幹線そして東北新幹線に乗り郡山へ。東京より先は20年ぶりで、車窓よりの風景は、懐かしい思いと変化がからみあい、さらに再会出来る友への想いもあいまって、心がときめいた。列車が郡山に近づくと、学校が気にかかる。席を立って車窓より写る母校を眺めた時、感動し、夕方の5時すぎに郡山駅に着いた。すぐに機械工学科第19回卒業生同級会が開かれる郡山ビューホテルへ向かっていく。場所を尋ねると懐かしい"うすい"とかの名前が出る。会場に入ると受付の山田吉美君より"ヤー山ちゃん"の声"ヤー久しぶり"……と声がはずむ。いたる所で会話の花が咲きみだれ大変楽しい時間をすごし、明日の打合せをし最後に皆んなで校歌を歌って閉会して、久しぶりの郡山の夜の町へ出て行った。深夜まで酒を飲んだり、歌を歌ったり、話をしたりで楽しい一時を過ごしホテルへ帰った。

翌朝、あいにくの雨だが図書館前に集まった。森谷信次君（先生）の案内で校内を見てまわる。最上階（8階）にある食堂より展望すると校内が一望出来、すばらしい発展が眼下に見える。下へ降りて歩くと雨の中、力一杯頑張って学園祭をもりたてている後輩達の姿があり心地よく感じた。我々機械第19回卒業生一同として、"アメリカハナミスギ"2本を校内に記念植樹し、その目録を参加者全員で学部長室に出向き贈呈式を行った。「訪ねる会」では、学部長や他の先生より現況の話を聞き先生方の紹介もあり、参加者代表よりお礼の話をし閉会後懇親会へと移った。その後、各々帰途についた。最後に学部長の話にもあったが"この様にすばらしい発展をとげているのは、卒業生の皆さんの働きが大きいです……"と、卒業したから学校に関係ないのではなく、自分達の頑張りが、母校を発展さす、輝やかすのだと確信し、責任を感じました。このすばらしい体験をする事が出来た会をお世話下さった人達に感謝します。アリガトウ。

（機械工学科第19回卒、有山本農機、岡山県長船町議会議員）

「母校を訪ねる会」第19回卒土木工学科

川　口　常　二

9月の初めに19回生の同期会の知らせを受け、とても楽しみで待ち遠しい日々を過ごしていた。

当日列車の中の私は、20年前の事を一人思い出していた。その日の3時過ぎに郡山に着き同期会会場のホテルにチエックインした後、学生時代お世話になった下宿のおじさん、おばさんの所へ顔を見せに行った。その当時オムツをしていた子供がもうすぐ結婚すると言う話を聞き、改めて20年の歳月を噛み締めざるを得なかった。

同期会の時間が迫りホテルへ戻り会場へ入って行くと懐かしい顔・顔の連続で、一緒に机を並べて色々と話をした事が急に思い出され、当時単位を取るのに苦労した事や、クラブ活動で私は泳げないのに水泳部に入って苦しい思いをした事、又夜空腹に絶えきれずに近くのお好み焼き店に毎日の様に食べに行き、ついに下宿のおばさんに玄関の鍵をかけられて友人のアパートへ転げ込んだ事など、昨日の事の様に思い出されて何かしら言うに言われぬ感激がこみ上げてくるのだった。

そして色々と話をしているうちに、そろそろ我々も中年と言われる年令となり、子供達が大学入試の時期にちょうどあたっていて、皆それぞれ親としての悩みの時期であり、自分達が学生だった時の親の苦労がどんなに大変であったかつくづく反省する次第であった。

又、先生達と話をしている時も母校は、我々が入学した頃とは違い随分難しくなってきているとの話を聞き、又、留学生がいたり、女子学生の数も工学部だけでも150名もいると話を聞き、大変驚くと共に時代の流れを感じた。そして一次会が終わり二次会へ行った後、昔よく通ったお好み焼き店に顔を出した所、当時学校出たてで母親の店にセーラー服姿で手伝いに出ていた娘が今は三児の母となり、肝ったま母さんよろしく店を切り盛りしている姿を見ると、何かしら現実の世界に呼び戻されてしまった。

次の日、卒業以来初めて見る母校の変貌に只々感心してしまい、当時レポートを書く為の実験棟などは3階建てのビルに変わり、今の学生は何と恵まれているのだろうと思わず妬ましさを感じる程であった。最後に先生達への感謝を終えた後、お互いに是非次回も又元気で再会出来ることを心に願いながら懐かしい校舎を後にした。今後もこんな会が長く続けられると共に母校の発展を心から願っています。又発起人に対し会を準備してくれた事に只々感謝しております。本当に御苦労様でした。

（土木工学科第19回卒業　北海道開発局）

「第11回母校を訪ねる会」に参加して

園　部　隆　夫

「第11回母校を訪ねる会」は平成3年10月27日小雨降る郡山の日大工学部キャンパスにて開かれました。当日は第41回北桜祭の開催最終日にも当り、我々第19回建築学科卒業の仲間は、雨の中、校庭を、校舎内を、昔の恋人を捜すかの様に歩き廻っておりました。卒業して20年目、多少太目になったり、髪が少々薄くなったりの外的変化はあるものの、優しい目，心は20年という歳月を感じさせないものでした。前夜は郡山市内のホテルにおいて第19回建築学科卒業生同級会が、市内で活躍されている藤田延幸氏、桑名和雄氏、田中敏夫氏、国分正喜氏等の心温まるお世話により開かれました。同級会には紅一点小池陽子（旧姓菅野）さんの出席を得、建築学科の友の絆の強さを感じさせられました。

当会には御多忙の中、谷川先生をはじめ多数の恩師の方々の御出席を頂き、学生時代に還って楽しい一時を過ごすことが出来ました。私事ですが、同級会に向かう道中、鈴木勇氏の車に田中悟氏と同乗し、学生時代の思い出を、そして現在の悩みを秋の景色を楽しみながら語り合い、賑やかな楽しい時を持つことが出来ました。「母校を訪ねる会」当日の北桜祭の出店での後輩達の元気な呼び込み姿、各教室で、サークル活動の発表している後輩の姿に、我が子の姿をダブらせたのは、私だけだったでしょうか。我々の今までの20年間は、建築で言えば躯体工事を行ってきたと言った所、これからは、仕上工事に入っていく時期と言えるでしょう。健康に十分気を付け、日大工学部で御指導いただいた「エンジニアの心」にさらに磨きをかける努力をして行くことを皆で再確認しました。最後に、今度は、校友会、建築学科、事務局の各部署の方々に大変お世話になりました。心からお礼申しあげます。

（建築学科第19回卒業　㈱フジタ　設計統括部）

校友レポート

「煉瓦屋」考

㈱ムサシ企画　佐藤久美子一級建築士設計事務所
佐　藤　久美子

1．はじめに

今年、ついに「母校を訪ねる会」に参加する年齢に達しました。もちろん、私も含めて同級生のおばさん達は、皆出席するつもりでいます。私は現在、川崎に住んでいます。生まれは福島県喜多方市で「蔵とラーメンの街」で有名な所です。家は建築業で４人姉妹の長女でしたので、本当はおムコさんを貰ってなどと考えていたのですが、人生は計画通りにいかないもので、結局は、縁あって嫁いでしまいました。昭和51年、私が25才の時に父が亡くなっていたので、母を一人残すことに、後ろめたい思いがありました。故郷というものは、遠く離れてみるとなつかしく思い出されるもので住んでいた頃よりもずっと深く喜多方を想っています。自分の原点と言うのでしょうか、故郷を忘れないことにおいては、私も鮭と同じ様なものです。そんな想いが、今回の仕事の延長線上にありました。

2．田中又一記念・喜多方煉瓦館

雪がとけて、待ちに待った春がやってくる今年の4月に、「田中又一記念・喜多方煉瓦館」がオープンします。この記念館は私にとって単に設計監理した建物というだけでなく、情熱の全てをつぎ込んだ恋人の様なものです。オーナーは、今年70歳になる私の母です。ですから情熱をかけたというのは設計のみならず、これを設計するに至るまでの経過という意味で聞いてください。では何故、こんなとんでもないものを建てることになったのかをお話しします。私の祖父・田中又一は明治の煉瓦師でした。現在、喜多方に点在する煉瓦蔵の全ては、彼の設計施工によるものです。明治14年喜多方市岩月町に生まれた又一は、12歳の時に一人徒歩で煉瓦積みの修業に上京し、清水組に入りました。やがて修業を終え、この地に戻り請負師として仕事を始めたのは20歳そこそこの頃でした。三津谷村を始め、岩月小学校、若喜商店、吉川商店、金田商店と次々に着手し、工事は建築にとどまらず、慶徳隧道、天鏡閣源水取り入れ口工事など土木にまで及びました。　しかし、関東大震災は、煉瓦建築物に大きな打撃をあたえ、以後、華麗なる組石造は衰退をたどりました。参考までに述べると、煉瓦建築物は低層であれば何の問題もなく、かつての新潟地震にもびくともしませんでした。又一は昭和45年に89歳の生涯を終えました。私が生まれた時、すでに又一は70歳でしたので、物心がついた頃は、おだやかな老人という印象しかありませんでした。もちろん煉瓦の話を聞いた記憶もありません。ですから、子供時代に若喜商店の側を通るたび、うっとりと眺めたとろけるような飴色の洋館、あれを設計施工したのが祖父であることを知ったのは、ずっと後のことでした。家の「煉瓦屋」と言う屋号とそれが同じ線上にあるとは考えられなかったし、取りたてて口にする人もいませんでした。

時が流れ、煉瓦蔵が脚光を浴びる様になりました。気がつくと誰が言い出したのか、煉瓦蔵はドイツ人が建てた事になっていました。帰省した折りに市の観光パンフレットにさえもそう書いてあるのを発見した時の驚き、母と私は、どちらが言い出すともなく「行くべ、行くべ」と言いながら市役所にすっ飛んでいきました。似たもの母娘と言うのでしょうか。あと先を考えない、この辺の息の合い方は一歩間違えるとこわいものがありますが、時には凄いパワーを発揮するのです。そして、すぐさま観光パンフレットをドイツ人から田中又一に直してくれるようお願いしました。勢いとは恐ろしいもので、母は私が川崎に帰ったあと再び、一人で市長さんに会いに行き、もう一度同じお願いをしてきたというのだから驚きです。本当のところ、又一の遺した仕事である事は建主の子孫達は知っていました。しかし一般の人達にはドイツ人の方がむしろ自然であるくらい、あまりにも遠い時代の出来事だったのだと思います。その後、実際にパンフレットが直るまでに３年程かかりました。

その頃に筑波大学の下山先生と北村さんがまとめられた本が送られてきました。生先方は煉瓦建築の研究をなされておりまして、又一の残した明治、大正の工事竣工の写真や資料を求めて何年か前にいらした時からの知り合いでした。それを読んで初めて、喜多方の煉瓦蔵が、構造的にも独特な木骨煉瓦造であることや、座敷蔵、作業蔵、味噌蔵、店舗蔵等、生活に密着した用途に使用されていることでは、全国でも例を見な

（田中又一記念・喜多方煉瓦館のパース）

い建築物であることを知りました。後に赤レンガネットワークに参加してみて、他の地域にある煉瓦建築物（例えば舞鶴や呉）は、明治時代に軍事目的で集中的に建てられた倉庫であることを知り、改めて我が街の文化遺産を見直しました。そして他の人にも知って欲しいものだと思い始めました。何しろ喜多方の人にとって蔵とラーメンは生まれた時から有る、空気のようなあたりまえの存在なのです。

それからの母と私は、本当のことを知ってもらうために写真展をやってアピールしてみようとか、絵ハガキを作ってみやげ物店に置いてもらおうとか、いろいろ知恵をふりしぼりました。そして最終的に煉瓦館を建てるしかないと言う事になりました。思えば、絵ハガキよりも何よりもこれが一番お金のかかる事なのに、母娘してこれしかないと思い込んだのです。母は家付き娘でしたので人一倍、祖父を敬愛していましたが、夫に先立たれ、頼みの娘が嫁に行き、もう已む無しと店をた畳んでいました。ですから建築資金の当てなどありませんでした。それは生家に居るつもりだったので預金を持たないまま結婚した私も同じでした。結局、最終的に先祖伝来の土地を売ったわけですが、そこに至るまでのコンセプト決定に5年以上を費やしました。人に言うと笑われそうですが、人生に一度でもこんな楽しいことが実現できる者が何人いるでしょうか。お金をたくさんもっていても有効に使える場所まで持っている人は少ないはず。まして、こんなステキな祖先がいるなんて、宝クジよりも運がいいと思えました。そして、この観光一本槍で行くしかない喜多方の為に少しでも貢献したい、といったところがコンセプトになりました。

これが決まり、母が本気で建設を考え、腹をくくったと見てとった一昨年、私は長年勤めた会社をやめ、それと前後して、母は建設資金調達の為、先祖伝来の土地を3カ所手離しました。後で聞くと最初の1カ所を売るときはつらかったけど、後の2カ所は、後に引けない思いだけだったと言っていました。母娘して、「行くべ、行くべ」と言いながら観光課に押しかけたあの日が、煉瓦館にまでつながったなんて信じられない思いです。

3．UIFA'91に参加して

工事が順調に滑り出したのを見届けた昨年8月、私はコペンハーゲンで開催されるUIFA'91（UNION INTERNATIONALE DES FEMMES ARCHITECTS：世界女性建築士連合）に参加する為、デンマークに旅立ちました。UIFAは、3．4年に1回開かれる国際会議で今回は9回目、日本の代表は中原のぶ子氏です。日本からは16名の参加で、全体とすると48カ国164名がコペンハーゲン市のシャーロッテンボー宮殿に集まったわけです。今回のメインテーマは

（会長のドラトゥール（フランス）と一緒に）

1．文化と環境について
2．ライフスタイルとバリューをバランス良く作って行く
3．女性のアイデンティティを如何に建築の中に取り入れていくか

で8/19～8/22の4日間に亘って開催されました。

内容は、初日の全体会議に始まり、45のレクチャーとエキシビジョンとしてのパネル展示。私も育児をテーマに子供は家の中だけでなく環境を含む社会全体で育てよう、というパネルを出しました。何より口惜しかったのは語学障害でした。日本に帰るとすぐに、次回に向けてNHKの続基礎英語と楽しいフランス語のテキストを買った程です。パネルの側にいた時、日本では老後を誰が看るのかと言うドイツ人の質問から始まった話しに40分程対応した私はぐったりしてしまいました。だからこんなこともあろうかと、友人達と共同で頼んでおいた通訳の人にきてもらった時はホッとしレクチャーは何とか理解することが出来ました。一部を紹介しますと、USA「ホームレス・今日の認識」、南アフリカ「WASA－南アの女性建築家」、カタール「カタール社会における女性の役割とその建築への繁栄」、スウェーデン「建築における女性のアイデンティティ」、ハンガリー「ブダペストの産業記念物」等興味ひかれる内容のものばかりでしたが、全部を聞くことが出来なかったのは非常に残念でした。

特に面白かったのはUSAのリリイ・ローゼンバークさんの「公共芸術を通して環境をヒューマナイズすること」でした。壁面や川、はては立体にまで粘土やタイルでアートをほどこすという、楽しい仕事の話しにすっかり興奮してしまい、次々に現れるカラフルでうきうきする様なアートのスライドを夢中でカメラにおさめました。あとでプリントに出したら全体が白くとんでしまっていました。それは、フラッシュのせいだと気づいた時は、本当にくやしい思いをしました。途中、見学会もあり、コペン近郊にあるデンマーク独特の民家とヤン・ウッツォンの設計した教会を見ました。礼拝堂の曲線にドギモを抜かれ、どのようにして型枠を組んだのだろうか、何の為にこんなところまで波うたせなければならないのだろうかなど、一瞬頭が混乱してしまいました。天才的なデザイン能力に圧倒され、かないっこない奇抜さであると納得し、ただただ素直にびっくりして帰ってきました。こんなふうにスケジュールのつまった4日間、出されたメニューを全てこなし、レクチャーにも朝から晩までくま無く出たものだから、有名な人魚の像やゲフィオンの泉にも

行きませんでした。日本に帰ってバッグの中に泊まっていた部室のカギを発見した時は、無我夢中にすごした何日かが一瞬に目前に迫ってきました。「ちょっと返しに行ってくる」と立ち上がったら「郵便で送れば？」と夫に止められました。いつか、もう一度、北欧の旅に出てみたいと思いました。

（ヤン・ウッツオン設計の教会
パイプオルガンのある礼拝堂）

ところで、ヨーロッパには煉瓦の建物がたくさんあります。自分なりに、煉瓦館はこれでいこうと結論を出して出かけた筈なのに、あまりの数の多さ、デザインの面白さに気持ちがグラつくことが、しばしばありました。つい電話ボックスに飛び込んで「あっ私よ、窓のデザインなんだけどね」とかけると、日本は真夜中だったりしました。いつも煉瓦館は心にひっかかっていました。

さて、楽しかったＵＩＦＡの最後の晩餐会がチボリ公園のレストランで開かれました。この会で多くの人と知り合い名刺交換をしたのですが、皆、ふだん使っている名刺らしく、国名が入っていないのです。あとで整理するとき眺めたら、どこが名前で、どこが住所かわからないなんていうのもありました。その晩餐会で日本から用意して行った「赤とんぼ」と「浜辺の歌」を独唱し、喜んでもらえたことは私にとっても忘れられない思い出となりました。特に「赤とんぼ」のオリエンタルな旋律は印象深かったようで、後であれは何という曲かと幾人もの人に聞かれました。次回の開催地はハンガリー、南アフリカ、日本のいずれかです。もし日本で開かれる時には、これを読まれた建築に携わる女性の諸先輩、後輩の方々も、参加なされてはいかがでしょうか。

4．老人ホーム見学記

実は、この旅にはもう一つ目的がありました。今、日本では急激な高齢化に対応すべく、各分野で研究が進められています。私も例にもれず、神奈川県建築士会女性委員会で高齢化に関する勉強会を重ねてきました。せっかく北欧に行くのなら、ぜひ福祉施設の見学を実現したいと、友人達と共にストックホルムとコペンハーゲンの高齢者用住宅を訪れました。紙面に限りがありますので大ざっぱにまとめますと、共通事項としては

1．自立することが前提である。（寝たきりにさせない）
2．その地域に住む人を対象としている。
3．終身介護である。
4．広くスペースをとり、室の外は社会である意識を持つ。
5．財政難から、在宅ケアを積極的に進めている。

在宅ケアについては本当に切実で、スウェーデンもデンマークも今後いっさい新しい老人ホームの建設は行わないと断言していました。日本と違うのは、孤独のみでは入居出来ないと言うことです。考え方として孤独は自分の問題であり病気ではないということです。だから入居の判断は本人がするのではなく、まず申請を出すと、市の職員が医師と精神科医と弁護士を伴って老人を訪ねます。一人での生活が無理であると判断が出されるまでには、例えば、部屋の改装をすれば在宅で良しとされるとすぐさま市の費用で部屋が直され、在宅サービスがあれば良しとされれば、すぐに必要なサービスがなされるわけで、仲々遠い道のりなのです。おムツが必要になっても在宅ケアがなされるし、寝返りさえうてなくなった人の為には、夜中に何度か職員が回ってくるということで、容易なことでは老人ホームに入れてもらえません。ということは老人ホームの方も平均年齢86歳、約99%の人が入居して3年以内に亡くなるそうで、そのくらいギリギリのところまで一人暮しをします。とにかく、どこを視察しても、おばあさんばかりが目につきました。寝たきり老人はいなかったけれど、車椅子の上で、首が落っこちそうになりながら居眠りをしていたあのおばあさんは、きっと、横になって寝たいんじゃないかな、と妙なところで同情する光景もありました。とてもいいなと思ったのは、足のウオノメを取る治療室が必ずあるとのことです。一説に、老人性痴呆症の30%はメガネと入れ歯を体に合わせ、足の治療をすることでずいぶん軽くなると言います。日本人も靴をはく様になって、足の様々な悩みを抱えている人が多くなりました。足の簡単な治療は医療の分野から切り離すべきだと思いました。

5．終わりに

雪の季節が訪れる前に、いよいよ煉瓦積みが始まりました。祖父と父のお弟子さん達で作った「又一会」のメンバーが、久々に顔をそろえました。化粧積みですが、格調高くイギリス積みです。この会津の地に宝石の様な建物をと夢みた何年かを振り返り、家族の協力のもとに喜多方に足を運んだ日々を思い、感激に、胸を高鳴らせています。喜多方にお出向きの折には、是非、喜多方煉瓦館をたずねて下さい。今や名物おばあちゃんとなった私の母が待っています。合言葉は「実は私も鮭なんです」でいかがでしょうか。

今は、展示物の制作に励む毎日です。

（旧姓田中、建築学科第20回卒業）

ヨーロッパ公営事業見て歩き

郡山市水道局　木　村　圭　二

自治総合センター主催の第5回海外公営企業事情調査団に参加する機会を得た。参加者は24名、一行は平成3年6月15日に出発して14日間の日程で、ヨーロッパ5カ国にわたりストックホルム・ベルリン・チューリッヒ・レリスタッド・アルメールの各都市の電気・ガス・上水道・下水道の公営企業を視察してきました。その見たままを紹介したいと思います。

◎ストックホルム市はスウェーデンの首都で北緯は59°20′（日本の宗谷岬は北緯45°50′）に位置しており、人口65万人、メラーレン湖からバルト海にのぞむ位置にあり、多くの島々とそれを結ぶ40の橋からなっており「スペアランド」といわれる風光明媚な所です。

現在、都市の再開発も進み、海港・空港・地下鉄・バス網が完備され、この国の政治や文化・商業の中心となっております。

ストックホルム市では、1892年火力発電による電力の供給が行われるなどの他に、地域暖房は1939年から始まり、1949年には本格的普及に力を入れた結果、急速に普及発展した。また、福祉の完備もめざましく充実している。ちなみに、電気・ガス代等も年1,500クローネであり、日本円に計算すると約34,470円位と安く、住みやすい所である。

このバッタンエネルギー公社の職員の給与は
ホワイトカラー大卒初任給13,500クローネ／月
（5年後頭打ち）18,000クローネ／月
ブルーカラー高卒初任給10,509クローネ／月
（5年後頭打ち）13,500クローネ／月
管理職40,000～45,000クローネ／月

この管理職の月給は日本円にして、約919,000円から1,034,000円位です。

◎スイス・チューリッヒ市の下水道について、下水道管理者ミスターイーズマン氏によると、市の人口は32万人で、州全体では60万人であり、下水道の処理場としては65万人用と15万人用の2カ所で処理しているとのことだった。

下水道の管路は800km、50カ所のポンプ場、貯留槽が25カ所からできているが、施設が老朽化しており管路の20%は不良とのことであり、この改良工事に年間300万フラン（約30億円）もかかるため、長期計画により改良工事を実施している。

◎チューリッヒ市では、1972年から水の保護と自然環境の保護に積極的に取り組み、次の7ツを重点的に推進している。

(1) 人間と動物の健康を守ること。
(2) どうしたら水をきれいにすることができるか。
(3) 飲料水と農業用水とも安全に使用できること。
(4) 水をきれいにし、湖や川で人間が安全に泳げるようにする。
(5) 動物が安心して湖に住めるようにする。
(6) 動物が湖や川の周りで安心して水を飲めるようにする。
(7) 緑を守り水を大切にして自然を守ること。

◎今回の海外調査団の視察は、スウェーデン・ドイツ・フランス・オランダという行程で14日間の日程であったが、これらヨーロッパの国々の旅をとおして感じたことは、いずれの国々も緑が大変豊かで、自然にあふれ、都市の町並みもきれいに整備されており、これは長年の歴史が物語るスケールの大きさが感じられました。古い町並みを保存し、自然を大切にすることに心掛けなければならないと、改めて思い起こした次第であります。　（本会理事　建築学科第3回卒）

［写真:ストックホルム支庁舎前にて］

校友エッセー

第７回国際水理学会アジア太平洋地区会議に参加して

土木工学科専任講師　長　林　久　夫

中国、北京飯店での第７回国際水理学会アジア太平洋地区会議に参加したのは天安門事件後の平成２年11月であった。同僚の高橋迪夫先生と院生２名と共に参加しました。国際会議は11月12日から15日までの４日間、約200件の講演が行われた。参加者の約７割は中国の研究者であったが公用語は英語であり中国の研究者は総じて上手に会話をされていた。会の運営は北京市水利水電科学研究所のスタッフにより行われていた。各会場には２名の進行係がおりＯＨＰの手配やら、質疑の通訳にと大活躍していた。大河の洪水流下には約１カ月程度を要することなど大陸の大きさが実感される講演もあった。

会場の北京飯店は北京市の中心に位置し、天安門、故宮、議事堂に隣接した区画にあり、各国の要人も宿泊する格式と伝統あるホテルである。建物は数回の増築を経ており比較的古いが良く清掃、整備され設備とサービスは一流であった。食事はホテル内のレストランで夕食が日本円に換算して２千円から３千円、朝食が600円程度であった。しかし中国での平均的な月給が６千円程度であると聞くに及んで、このような贅沢は許されないと極力街で食事することにした。とは言え、言葉は学生時代に覚えた１から９までの数詞と旅行社から頂いた中国旅行用小冊子のみである。しかしこれが意外と役に立つ。北京の銀座通りとして有名な大府井大街に隣接した大通り沿いに、電燭鮮やかに衣服や飲食の屋台が並んでた。屋台は約30軒程度で、各店が２品から３品を扱っている。焼き鳥ふう、焼きそばふう、雑炊、麺類と色とりどりである。しかし中国の人は独特の香草が好みのようで、どれにもこの香りが効いている。極力香りの無いものを選択して３から４品をはしごした。屋台にはすべて、写真入りの許可証と、料理と値段が表示してある。値段はその多くが１元（約30円）から１.５元である。街のレストランでの食事でも６品程度とビールで一人約20元程度であり、これであれば質素を旨とすれば前述の給料にて生活は可能と実感した。

学会後の研修旅行は重慶から長江(揚子江)を船でくだり、宜昌から列車で武漢へと向かう旅であった。第一の訪問先のChongqing（チョンチン）が重慶であることを知ったのは、日本を立つ数日前であった。どうも中国語と日本語では発音が異なり音で聞くと何のことやら皆目見当がつかない。まして中国語読みの英語では、日本語の地図で地名を探してもわからない。

北京から重慶までは飛行機で約２時間である。昼に北京空港についた。飛行機は飛ばない。乗るはずの便がまだ向こうを立っていないとのこと。待つこと８時間、フライト予定便が次々と取りやめになる中、最終便で重慶へ。深く眠る重慶の街をホテルへ、深夜１時を回っているのに途中道路工事をしている。女性労働者も深夜工事を行っているのには驚いた。

次の日午前６時にホテルを出てフェリーへと向かう。暗い中を海岸段丘の長い階段を重い荷物を下げて急ぎ足で歩く、狭い通路を経てキャビンへと案内される。２等船室、この船の中で最上の船室であろうが、日本で見たパンフレットの高級観光船とはいささか趣が異なっている。出帆の風景を見るべくデッキへ、船は微動だにしない。霧で動きがとれない。ラウンジにて歓談した。ガイド役の中国科学水利電力科学院の郭（ＧＵＯ）さんが昼食を告げにくる。翌日の昼には648kmの船旅を終え宜昌に到着する予定。午後３時にわずか動いたもののまた停泊。

郭さんが夕食を告げにくる。その夜はカードゲームで盛り上がった。しかしこの長い停泊のおかげで、すっかり打ち解け、多くの話ができたのも貴重な成果であった。

翌日、午後９時、約１日遅れて万県に到着した。これより宜昌までの間に100kmに及ぶ三峡（Three Gorges）峡谷がある。断崖や奇岩がそびえる難所でありまたこの河下りの観光の中心である。第一の難所、瞿唐峡は遅れのため午前２時、サーチライト２灯と汽笛だけの有視界航行となった。ライトに浮かぶ摂理や石柱の続く断崖は両岸から覆いくるようで頂は確認できない。最後の西陵峡を過ぎると急に視野が開ける。下流に長江を横断する建築物が見える、葛州覇（Ge Zhou Ba）ダムである。現在、長江を横断する唯一のダムで長さ約2,600mにも及ぶ重力式コンクリートダムである。発電される約200万KWの電力は工業都市重慶へ送電される。

葛州覇ダム見学の後、夜行列車にて武漢へ。武漢では長江科学院の大規模実験施設を見学し、また壮大な三峡ダム開発プロジェクトの説明を受けた。武漢より空路、上海、成田へと中国の旅を終えた。

（土木工学科第19回卒）

［写真は三峡通過後、ツアー仲間全員で、
筆者前列右から２人目］

若葉マーク
がんばり記

新人社員＝無我夢中

ソニーケミカル㈱　鹿沼工場
早乙女　晴美

早いもので、私が入社してから半年以上も経ってしまいました。その間、いろいろな事がありました。楽しかった事、うれしかった事、苦しかった事。今思えば、この一つ一つの出来事が、学生だった私をいつの間にか社会人にしてしまったように感じます。私の勤務しているソニーケミカル㈱は、「世界のソニー」のケミカル部門として創立しましたが、エレクトロニクス産業をはじめ、建築・車・化学工業などのあらゆる産業界に高品質で多彩な化学工業製品を供給しております。もっと簡単に言えば、産業界の粘着剤部門を担当しているのです。

まず4月の入社式からの一週間は、会社生活における基本的な知識とマナーの習得ということで、オリエンテーションが行われました。内容は、特に安全性に関するものが多く、警察の方を呼んでの交通安全(私どもの会社は田舎にあるので通勤方法が自家用車しかないのです)・消化器訓練（新入社員の一人一人が『火事だー！』と大声を出して消化器の操作をして実際に火を消しました）・ＫＹＴ実習（Ｋ＝危険、Ｙ＝予知、Ｔ＝トレーニングの略）などがありました。このＫＹＴとは、文字通り工場内に起こり得る事故を一枚の作業絵から見つけ出して、これを４人くらいのグループになって話し合いをするのですが、個人個人でこんなにも着眼点が違うのかと、いまさらながら驚かされました。

次に、メーカー企業活動の基幹である製造部門での体験学習に入りました。普通、男性の方々は３カ月間なのですが、私は技術系でも女ということもあって１カ月で済みました。ちなみに今年入社した技術系の女性は、私一人です。私の実習先は、記録製品部門の技術２課という、ワープロ用やバーコード用のリボンの改良を行っている人に付いて、その人の助手的なことをしてきました。といってもただ改良されたものの印字評価を行ってきただけですが。しかしカセットに入っているわけではなく、私が１枚のフィルムからカッターで細長く切り、セロハンテープで繋いで一本のリボンにしてからカセットにセットして評価していたのです。ですから一日に10サンプル評価できれば良い方でした。とても細かい仕事でしたので、１日が終わると、どっと疲れが出て家に帰ると何もする気がおきず家族にぐちばかりこぼしていたような気がします。

この実習で私が得たものは、人間あきらめなければ必ずいつかは良い結果が生まれるという事でした。また、会社の研究とは、学生時代の研究と違い、売れる商品しかもコストの低い物をと第一に考えて開発していかなければならないということがよく分かりました。

やっと実習が終わり、配属先での実習が始まりました。私の配属先は、商品開発部といってここでは主に、２～３年先のテーマで商品の開発を行っている所でした。私は意外だったので、びっくりしてしまいました。この部には分析グループというのがあって、てっきり私は、分析グループかと思っていたのです。私の卒業研究が分析関係だったからなのですが、不思議に思い部長に伺うと「早乙女さんは、根性がありそうだし、なんていったって開発は、体力だから」とおっしゃるのです。確かに私は面接の時に得意は何ですかと聞かれ、「健康な体です。」と答えたのです。よく考えてみれば、ある物を分析するよりは、ない物を作り出す方が、ずっとおもしろいのではないかと思いすぐ開発の方でがんばろうという気持ちになりました。

そして、開発での１カ月の実習が終わり晴れて自分のテーマが与えられました。

今私はＵＶ（紫外線）硬化樹脂の開発を行っています。オリゴマー、モノマーという世界でまだ何も分からず、一からの勉強ですが毎日を忙しく、楽しく過ごしています。

本当に仕事に関しては恵まれているなと思う今日この頃です。自分の意見をぶつけられ、その事について真剣に考えてくれる先輩達がいる、私も来年入ってくる人達に対して、そうありたいと思います。

また、休日には、同僚と温泉旅行、スキー、ゴルフと（この時は、もちろん事務系の女性も一緒）社内の和を広げています。

私が最後に申し上げておきたいことは、これは、他の大学出身の友人と話してた事なのですが、就職する前の自分の会社のイメージと実際の仕事のギャップが激しかったという事です。しかし自分で選んだ会社です。くじけずにがんばってほしいと思います。そうすればいつか自分に対してプラスになる日が来ると思います。

私も皆さんに負けないようがんばりますから。

（工業化学科第39回卒）

情報学科の設置について

産業界のみならず、一般家庭にもコンピューターが急速に普及し、いわゆる情報化社会に突入したといわれる現在、我が国では高度な知識集約産業の基盤を確立することが急務とされている。そのため、いろいろな分野から、情報系分野の教育と研究の充実を望む声が高まってきており、特に大学に対する期待は大きい。このような期待に応えるべく、工学部では情報学科を新設することになった。

工学部は昭和24年第二工学部発足以来、工学基幹5学科の組織を40年余続けてきたが、新しい時代に対応するための学科増設について、平成元年12月学部長から教育組織検討委員会に諮問があった。平成2年6月情報系学科等の増設について中間答申があった。その後企画委員会でも並行して審議した結果、平成3年に至り、情報系学科を増設すべきであるとの答申が両委員会から出された。これをうけて、情報系学科設置委員会及び学科定員検討委員会を設けて学科増設へ向けての具体的な検討に入った。そして平成3年6月の教授会で「増設学科の名称は情報学科とする。入学定員は160名、平成5年4月1日開設(一年次)とする。これに伴い土木、建築、機械、電気の4学科は現在220名の入学定員を各40名ずつ減員し、総定員は変更しない。」ことを決定した。その後、大学本部に内申、学部長会議、理事会で承認された。今後3月の評議員会で承認された後、4月末に文部省に設置認可の申請を行う予定である。また、情報学科棟については本年7月着工、平成5年9月完成の予定で準備を進めている。

情報学科を増設する主な理由は次の通りである

①郡山市は郡山地区テクノポリスの中心地であり、また、頭脳立地法に基づく頭脳立地構想指定地域にもなっており、情報系学科の設置に関して地域からの要望も強い。

②理工系大学受験に関する最近の傾向を見ると、情報系学科の志望者が急増している。しかしながら日本大学の他学部には情報系学科はなく、学内からも新学科の設置は強く要望されている。

③情報化の進展に伴い、情報系の分野は既存5学科の学問分野との関連も密接になっており、新学科の設置により工学部全般に亘って、教育研究の一層の充実が期待できる。

④情報系技術者に対する、産業界からの需要が益々増大することが予想される。

情報学科のカリキュラムは、専門教育科目として62科目119単位の開設を予定している。学生はこの中から70単位以上を修得することになる。カリキュラムの特色としては、第一に数学系を含めた情報基礎系の科目が14科目28単位と充実していること。これにより論理的思考方法を修得させ、柔軟な研究開発能力を養うことができる。第二に知識情報処理系が11科目、22単位と充実している。

これにより、計算機工学と人間科学とを総合し、最適なヒューマンインターフェースの研究開発能力を養うことができる。

(工学部次長　蓬田和夫)

[事務局便り]

○校友会報No.55を編集発行しました。多数の方々のご原稿をいただきありがとうございました。特に工学部次長の蓬田教授からは情報学科に関しての展望を書いていただきました。平成5年度からは工学部も6学科制になる予定です。

○管理棟の改築工事もこの夏に竣工予定です。

○校友会も半沢会長の体制になって約一年になろうとしています。今度の総会は東京会場ですので、多くの会員の出席をお待ちしています。

会員総合名簿(平成4年版)の発行について

校友会の基幹事業の一つである会員管理は昭和54年5月より電算化を行い、お蔭様で順調に運営されて極めて精度の高いものとなりました。今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、会では、会員総合名簿の発行を5年毎と定めておりますが、前回は昭和62年発行でしたので本年が発行年次に当ります。そのため、現在電算に入力されている各人のマスターを打ち出し、それを会報に同封し各人に郵送致します。つきましては、その説明のとおり、**訂正のある人は必ず訂正事項を記入し調査表を返送してください。**それに基づいてより精度の高い名簿にしたいと思います。

この名簿の該当者は約33,000名で、大体630頁程度になるものと予想されます。ご承知のとおり経費も嵩みますので、前回同様希望者に有償でお分けすることになりました。**頒布金額は郵送料とも3,500円です。この名簿の希望者は6月末日までに、この会報に同封してあります「振替用紙」により、郵便局から送金くださるようお願いいたします。**これを予約申込書といたします。名簿の発行は9月を予定しております。

また、名簿には「広告」も掲載する予定ですので、何分のご協力をお願いいたします。

なお、不案内な点は事務局におたずねください。

第12回母校を訪ねる会

日　　時　平成4年10月25日(日)(予定)

対　　象　第20回卒業生(昭和47年3月卒業)

前日同級会など開催され多数出席されるようお待ちいたします。

なお、該当しない校友の参加も歓迎。

同窓会・クラス会・支部総会

写真部創立40周年記念式典の報告

写真部ＯＢ会会長　村　山　　誠

平成3年11月23日、日本大学の郡山研修会館に於て、上記の式典を開催しました。

学部長代理としての高木教授、そして中野教授と星助教授を迎え、顧問の永嶋助教授のご指導のもと現役部員達が立派な式典にしてくれました。

ＯＢ会員も、宮本準司(土7)三村僚(土12)先輩ら34名の出席を数えました。式典後、永年技術指導を仰いでいる今泉嘉一郎氏（芸術学部卒)の還暦祝賀会を合わせ祝宴を行い各時代の思い出を、写真展のアルバム等を見ながら時間の経過も忘れ一夜を明かした。ご夫人同伴の方々もおり、改めて学部関係者に敬意を表する次第です。今回出席できず残念な思いをしているＯＢ諸氏も多いと思いますが、毎年11月の写真展は伝統を守り、より発展を期して行われる事と思われます。案内があったら是非現役部員の激励と、思い出の足跡を訪ねて見てはいかがでしょうか。

（建築学科第14回卒業、新潟県六日町土木事務所）

機械工学科第9回卒業同期クラス会

奈　良　俊　勝

平成3年10月19日(土)、母校の地・郡山に於て機械工学科第9回卒(昭和35年度)を中心とした同期クラス会を開催した。

顧みれば、今年は母校を卒業して30年の節目の年に当り、これを記念してのクラス会であった。

当日、午後3時、母校に集合したが、昔の木造校舎の面影は最早どこにも見ることはなく、校門から続く桜並木がひと廻り大きくなりはしたものの、僅かにその面影を残していたような気がした。

新しく建てられた教室棟、実験棟そして図書館や情報研究棟等々、すばらしく変貌した母校の姿に感嘆し驚くと共に、あのように恵まれた環境の中で学ぶことが出来る今の学生達に、羨望の念を抱きつつ、各人がそれぞれの思いで、学内を見学させて頂いた。

クラス会は午後5時半から、日大郡山研修会館に於て、恩師・外木有光先生、柳沼福夫先生のご列席を得て始められたが、30年も経つとお互い顔と名前が一致せず、暫くは胸に付けた名札が頼りでしたが、話がはずむうちに学生時代の姿を想い起こし、宴も酣となる頃には、すっかり昔の雰囲気に戻り、夜の更けるのも忘れて語り合い本当に楽しい一夜であった。

翌日、或いは当日少し早く来て、郡山市内を散策した人もいたが、昔の下宿先を訪ねたり、街の中を歩き廻ったり、将に30年ぶりに訪れた人もいて、僅かに残る昔の名残りを見つけて懐かしんでいた。

研修会館に泊まっての2日間にわたるクラス会は、私達参加者にとって、明日への糧となり、後年、又の再会を約束して散会したのであった。

今回の参加者は31名であったが、都合により出席できないとの連絡をうけた40余名の方々には、全員の記念写真を送って少しでも昔を懐かしんでもらうこととした。

（機械工学科第9回卒業、三菱重工業㈱）

卒業後の各種証明書について

申し込み先：工学部教務課

電話での申し込みは受けつけません。

校友会では取り扱っていません。

日大郡山みちの会同窓会

田口幸代

日大郡山みちの会創設以来、30年の歳月を経て、ようやくのこと郡山の地で卒業生の集いを開催することができました。あの正門に続く桜並木を桜の咲く季節に再び歩いてみたいといったご希望もありまして、平成3年4月27日～28日に日大工学部キャンパスと郡山研修会館にて24名が集い、想い出と現在を語り合いました。卒業以来初めてキャンパスを訪れた人も多く、整備された学内や立派な建物に驚きました。又あちこちに名残りをとどめた昔の面影を見出し、懐かしさに胸はいっぱいでした。先生方をはじめ、創設由来の山田みちさん(旧姓井上 工業化学科第10回卒)にも、遠路青森よりご出席頂き本当に楽しいひとときを過ごすことができました。ただ残念に思うことは、現役のみちの会のメンバーが来春限りで卒業してしまうのだそうです。時代の流れと共に、女子学生の雰囲気もだいぶ変化した様で、もはや女性のみで集まって語り合う場など不必要になってしまった様ですね。20年前のキャンパスには女子学生の姿はほとんど見られなかったのですが、今数多くの女子学生達の華やいだ姿に、羨ましさを感じます。工科系の女子学生の就職先は、大方男性社員の補助作業といった雰囲気が多かった昔に比べ、今は平等な門戸も開かれ、就職戦線は夢の様に広がって来ました。後輩の皆様方の一層のご活躍を期待する為にも、私達卒業生も微力を合わせ尽力致したいと思います。社会一般的には家事育児はまだまだ女性のみの領域として認識されている現在ですので、私達女性の力を結束した場を設けて、家事育児と両立してゆけるような女性の職場の確保や女性の意見発表の機会を得るべく努力してゆきたいと思います。以前はほとんど建築学科と工業化学科にしか女子学生はおりませんでしたが、今は各科に在籍して現役のみちの会のメンバーも電気工学科の方もいらっしゃいます。ますます各分野でのご活躍が期待でき心強い限りです。

縁あって、みちのく郡山の同じ学舎で4年間を過ごした女性同志として、今後末長くこの語り合う場を設けて新しいメンバーの入会を祈りながら郡山の地に集いたいとおもいます。全国に離散していても、二百余名の日大工学部卒業の女性がいるということは心強いものがあります。女性の職場進出のめざましい現在、元日大工学部女子学生として同胞の輪を広げ、親睦を深めてゆこうではありませんか！皆様のご協力をお願い致しますと共に、紙面を借りまして先生方をはじめ、大学の関係者の方々のご厚情に感謝申し上げます。大変お世話様になり本当に有難うございました。今後共よろしくご指導頂きたくお願い致します。

(旧姓阿部　建築学科第20回卒業、菅野建設㈱)

ワンダーフォーゲル部 結成30周年記念式典

佐々木　洋　志

「私の全財産を君にあげるから、君の若さを私にくれないか？」ある高名な方がこう言われたといいます。このような大事な若さの時期を、日大のワンゲルで過ごした私達は、本当に幸せ者だったと今にしてしみじみと感謝しています。「ワンゲル結成30周年記念行事」を平成3年11月2日、国分工学部長はじめ、15名ものご来賓を迎えて、郡山市のビューホテルアネックスで開催しました。

当日は現役を主役にして、南は九州から参加のOBを含めて127名が集まり、盛大に開催し、交流を深めることができました。学外顧問の「秋田陽一郎先生」に工学部から感謝状の贈呈があったり、また、学術文化部らしく「山と水と村のくらし」と題して、郡山市熱海町石筵に在住の後藤克己氏からの記念講演もあり、ブナ林の保護にワンゲルも一役買うことになりました。

今までも磐梯山頂に方位盤、岳スキー場に智恵子抄の碑を設置したり、開成山公園にアメリカハナミズキの植樹をしましたが、今回の記念事業としては、学内に「ロダンの考える人」のレプリカ像を贈呈しました。

翌11月3日は快晴の安達太良山に現役と共に記念登山を行い、大変意義深い、思い出に残る記念行事となりました。

(土木工学科第14回卒、
パーフェクトリバティー 教団町田教会教会長)

央莫竜峰（６０６０m）登頂報告

山岳部OB会　佐藤　彰

工学部山岳部創立30周年を記念し、日本大学工学部校友会の後援をいただき、工学部山岳部ＯＢ会北桜会（会長池田忠好、会員約100名）は平成３年10月８日より11月21日迄約１.５カ月、中国四川省西部の（北緯30°東経99°20′）川蔵南路の南、巴塘の南東約20kmに位置する標高6,060mの未登峰の央莫竜峰（ヤンモーロン）に遠征した。この遠征は、ＯＢ10名の隊員で行われた。この山は金沙江（長江の上流）境に四川省西部（甘孜蔵族自治州）とチベット自治区東部を南北に貫く横断山脈、海子山塊の独立峰である。この地域はヒマラヤ東北部に位置し、中華人民共和国建国30年を迎えた1979年に中国の数カ所の山々を外国人に開放した経緯もあり世界的にも数少ない秘境でもある。日本に於ても央莫竜峰についての資料は非常に少なく、各方面に手をつくして地図、気象情況等の資料を集め一応計画は出来たものの行って見なければ解らない点が多くあった。

10月８日に空路成田、北京、成都、陸路にて（マイクロバス１台、小型トラック１台、ジープ１台、隊荷約３t）成都、雅江、巴塘へと約920kmの車の旅で10月13日に巴塘に到着した。途中4,000m以上の峠を４カ所越えなければならなかった。途中印度国境に向うおびただしい軍用トラックの群れを縫って砂漠の中を進んだ。

巴塘に着いて地元の情報を集め、ベースキャンプ迄の進入ルート決定のための偵察隊２隊を編成し南北両面からの偵察を行った。１９日戦略会議の結果北面よりの進入が決定された。即ち巴塘－魚卡通－林場迄車で40km林場－桑戈西下午場（標高4,200m）にＢＣを置く、キャラバンの日程は３日間と決めＢＣ開き23日とした。キャラバンに要した地元協力員は40名、馬36頭であった。本隊キャラバン中に先発隊により北面のアタックルートの偵察を行い北面ゴンペゴルートの可能性をつきとめ２３日よりＣ１建設に向け高度順化、荷上ルート工作と本格的な登山活動を開始した。Ｃ１（5,200m）Ｃ２（5,500m）約２週間に及ぶ荷上、ルート工作の結果最高到達点5,450mをもってＣ２建設に至らず登山活動を断念した。11月に入り予想以上の夜間の降雪に悩まされ、日中の雪崩がすさまじく最終のアタック態勢に至らずの撤退であった。しかしながら南北両面の平行して行なわれたアタックルートの偵察は充分な成果があり次回の登頂に希望が持てるものであった。

この遠征に対してＯＢ会はもとより母校の国分欽智工学部長、小林秀一助教授、退職された元山岳部長の吉沢周蔵先生、校友会の半沢忠会長、武田仁幸前会長等々各方面の方々に多大なるご協力を頂き登頂出来ずに帰国した事を申し訳なくお詫びと御礼を申し上げます。

日本側隊員構成

隊　長　佐藤　彰
副隊長　荒木幹治　山崎茂雄
隊　員　中尾清治
登攀リーダー　佐藤正昭
隊　員　丸山正記　大須賀春一
高田智博　金子恭郎
佐藤　由
中国側　連絡官　猛　天　立さんら４名
（土木工学科第８回卒業、新太平洋建設㈱）

［写真：ＢＣに集結した全隊員］

硬式庭球部ＯＢ会30周年記念会

片岡周太

日本大学工学部硬式庭球部ＯＢ会30周年記念会は平成３年６月29日、東京都内の銀座東急ホテルで開催されました。

草創の頃に顧問であった西村祖一先生や現在の顧問である中村宣弘先生をはじめ、出席者は80余名あり、全国から参集していただけました。

校友会からは校歌のテープをお送りいただき会を盛り上げることができました。同時に記念誌を発行し、ＯＢ全員に送付しました。

会員各位の今後のご活躍を願っています。

（建築学科15回卒、民主書房）

各支部の総会

○東海支部総会
平成3年7月11日（木）
名古屋市　名古屋都ホテル
参加会員　66名
本部から　半沢忠会長、渡沢正典理事
来　　賓　後藤尚教授ら15人

○九州支部総会
平成3年7月12日（金）
福岡市　セントラルホテル福岡
参加会員　47名
本部から　半沢忠会長

○北海道支部総会
平成3年7月13日（土）
札幌市　札幌アートプラザホテル
参加会員　64名
本部から　村田吉晴事業部長
来　　賓　高木昭教授ら7名

○四国支部総会
平成3年7月27日（土）
高松市　わたや旅館
参加会員　約20名
本部から　佐藤吉新副会長

噂のページ

◇斉藤　学君（専電気1回卒）
学校法人福島成蹊学園評議員・理事
平成2年11月30日に、福島県スポーツ功労賞を授賞しました。昭和26年以来40年間、特に(財)日本ソフトボール協会理事として20年間にわたり、全国規模のソフトボール大会の誘致に尽力され、永年にわたり本県の体育スポーツの普及進行に貢献されました。現在は平成7年「ふくしま国体」の成功のため、国体常任委員として活躍されています。（事務局）

◇鈴木　隆君（機械3回卒）
平成3年3月に福島県立勿来工高を定年退職されましたが、平成3年11月1日、病気のため逝去されました。鈴木隆君は在学中の昭和28年に「北心寮寮歌」を作曲され、そのメロディは代々の学生によって歌い継がれ、工学部の卒業生や在学生の一本の絆(きずな)になっております。ご冥福をお祈りいたします。（事務局）

北海道支部
支部長　松山忠牡（土14回）東急建設㈱
事務局長　松久房夫（土14回）札幌市下水道局

東京支部
支部長　古村和夫（土3回）古村建設㈱

東海支部
支部長　平野　卓（土3回）
東京エンジニアリング㈱名古屋支社
事務局長　河野　叶（土6回）秋芳技研㈱

九州支部
支部長　湯村　筑後（建10回）福岡県土木部
事務局長　今福　英允（建16回）㈱イマフク

四国支部
支部長　谷久　嘉典（土8回）㈱谷久工務店
事務局長　北岡　保之（化14回）高松市役所

校友短信

（校友会の事務局へのお便りや、連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承ください。）

土木工学科

◇根本　亮（3回卒）

昭和30年以来、千葉県庁に勤務、平成3年4月をもって、千葉県企業庁長を最後に退職、第3セクターの㈱かずさアカデミアパークの社長に就任、ホテルや国際会議などの運営にあたることになりました。

（H．3．11．11受）

◇澤村　克治（19回卒．大津市企画室企画調整課）

大津市に奉職以来、18年2カ月で初めて人事移動があり現職にきました。琵琶湖を守る下水道一筋の仕事でしたが、現在は(財)全国市町村振興協会が大津市唐崎において平成5年に開講される「市町村国際文化研修所」の建設事業に係わっています。

（H．3．10．5受）

◇鈴木　廣（19回卒．鈴五建設工業㈱）

アメリカからやってきた日本初めてのフランチャイズによるリフォームビジネス、ミスタービルドの福島県本部を昨年4月に設立しました。現在加盟店を募集しています。

（H．3．9．28受）

◇宮下和比古（19回卒）

本年8月末に青木建設㈱を退社して、静岡県の伊東市に独立し、宮下エンジニアリングを設立しました。皆さんのご協力をお願いします。

（H．3．9．19受）

建築学科

◇岸本慶範（8回卒．九州大学施設部）

平成3年4月1日付で、大阪教育大学から九州大学大学施設部建築課長に転勤になりました。

（H.3.5.2受）

◇佐藤　幸雄（19回卒、㈱佐藤建設工業）

宮城県で建設業の家業を継いで頑張っております。母校を訪ねる会には、残念ながら出席できませんが、盛会を祈っています。

（H．3．9．19受）

機械工学科

◇佐久間正二（9回卒．日本ピストンリング㈱）

4年半の中華民国台湾の駐在勤務を終えて、平成3年3月に帰国して参りました。現在は栃木県野木町にある栃木工場品質保証部に勤務しております。

（H．3．9．3受）

◇木村俊幸（19回卒．アイシン精機㈱）

今年の年末に3年間の予定で、アメリカのインディアナ州のシーモアというところに行くことが決まり今その準備をしています

（H．3．10．16受）

◇田中　寿一（29回卒．カルソニック㈱）

社名が日本ラヂエーター㈱からカルソニック㈱と変更になりました。佐野市にある会社の工務部技術課で製品を全自動で生産するためのロボットシステム（ライン）を設計しています。現在、アメリカのテネシー工場のシステムの設計で大忙しです。

（H．3．4．11受）

電気工学科

◇宗像大三路（4回卒．栃木クラリオン電子㈱）

平成3年6月27日、クラリオン㈱取締役を退任いたしました。34年の永きに亘り無事大過なく勤めさせて戴きました。今般、関連会社であります栃木クラリオン電子㈱代表取締役社長に就任し勤務することになりました。

（H．3．7．30受）

◇大芝　智（18回卒．東光電気工事㈱）

現在、東光電気工事㈱の霞が関ビル三井関連工事事務所の所長として、霞が関ビルリニューアル工事他近辺ビルの新築及改修工事を担当しております。校友会報はいつも楽しく読ませて戴いております。

◇荒山一彦（32回卒、富士通㈱）

90年4月より5年間の予定で富士通㈱より出向を命ぜられました。勤務先はFujitsu Imaging Systemus of America Incで、ファクシミリに関してのR＆Dを担当しております。アメリカ東部のニューヨーク近郊のDanbury（ダンベリ）に住んでいます。

この度、国分鉄智先生が学部長に就任されたそうで、先生の益々のご活躍と工学部のご発展をお祈りいたします。

（H．3．4．23受）

工業化学科

◇雨宮　康裕（19回卒）

13年いた大阪から、故郷の甲府に帰ってきました。現在、外資系のロード・ファー・イーストＩＮＣで頑張っています。

（H．3．9．28受）

◇山田　茂（25回卒．和光化成工業㈱）

和光化成工業㈱品質保証部品質管理課で、自動車のプラスティック部品の試験の仕事をしています。

（H．3．6．24受）

CAMPUS

mini—MEMO

◇校友の母校での教員

平成３年４月１日付で昇格されました。

教　　授　依田　満夫　〔機14回卒〕工博

助教授　　河井　宏文　〔機９回卒〕

　　渡辺　直隆　〔電17回卒〕医博

専任講師　渡辺　博之　〔電27回卒〕

平成３年４月１日付で新任されました。

教　　授　坂野　　進　〔機12回卒〕工博

◇林・大内・藤木の三先生が退職

林　精一（一）昭和37年４月１日～平成３年６月９日
　　定年退職

大内一雄（建）昭和46年４月１日～平成３年３月31日
　　依願退職

藤木正也（電）昭和57年４月１日～平成３年３月31日
　　定年退職

なお、林精一先生は退職後、病気療養中でしたが、平成３年10月12日に逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

◇日本大学大学院工学研究科だより

①平成２年度、次の４名に工学博士の学位を授与。

細川修二：ボルト・ナット締結体における摩擦の役割に関する研究
H．２．11．26

湯淺耕三：正保城絵図による城下町の面積規模と道路の特質に関する復元的研究
H．２．11．26

原田良誠：下水の高度処理を目的とした長時間エアレーション法施設の機能改善に関する研究
H．３．３．18

白井　篤：建築用ポリーマーフェロセメントの開発
H．３．３．25

細川氏は論文博士の26号、湯淺氏は27号、原田氏は28号、白井氏は課程博士の６号です。湯淺氏は建築14回卒で名古屋工業大学社会開発工学科に勤務、原田氏は機械15回卒で浜松市下水道部に勤務、白井氏は建築30回卒で現在は東京家政学院大学住居学科に勤務されています。

②平成２年度大学院設備拡充費

（ｉ）「岩質材料の破壊及び劣化予測に関する研究」赤津武雄・田野久貴の諸先生。高圧岩石三軸圧縮試験装置一式ＡＥ測定用データチャンバー一式などで経費は約4,900万円。

（ii）「鉄筋コンクリート構造物の耐火性診断及び耐久性改善策の検討」大濱嘉彦・出村克宣の諸先生。Ｘ線分析装置一式で経費は1,100万円。

◇管理棟の改築すすむ

昭和37年に竣工した管理棟は、現在改築工事が進められている。新棟は６階建延4,928㎡で、平成４年６月完工予定である。その今昔を３枚の写真で……　（た）

▼竣工式（昭和37年４月20日）

▼時計台の竣工除幕式（昭和46年１月16日）

▼改築工事中（写真は平成３年10月16日）

日本大学工学部校友会会員各位　　平成4年3月1日

日本大学工学部校友会会長　半沢　忠

平成4年度通常総会通知

会員各位には益々ご発展ご活躍のこととお慶び申しあげます。
さて、日本大学工学部校友会平成4年度通常総会を下記のとおり開催いたしますので、皆様には、ご多用中とは存じますが、先輩後輩お誘いあわせの上、多数ご出席くださいますようご通知申し上げます。

記

1. 日　　時　平成4年4月18日（土）
　　午後2時より総会、同3時30分より懇親会
2. 場　　所　日本大学会館
　　所在地：東京都千代田区九段南4－8－24
　　☎03－5275－8110
3. 総会・議題　（1）平成3年度会務および決算報告
　　（2）平成4年度事業計画および予算審議
　　（3）その他
4. そ の 他
　（1）総会終了後、引き続き同所において大学関係者を迎え懇親会を予定しています。
　（2）この機会に同級会などを開かれる場合は、校友会事務局にもお知らせください。
　（3）会場に駐車場はありません。

以上

◇課外活動各部の活躍

（平成3年1月～12月）　（学生課調べ）

○日本大学体育大会（10／1～10／15）
▽柔道部　2位
▽サッカー部　3位

○第42回東北地区大学総合体育大会
（6/28～7/1）（盛岡市）
▽ラグビー部　Bリーグ　優勝
▽空手道部　個人 村木安哉子　3位
▽弓 道 部　個人 菅野　正孝　3位
▽ボクシング部　個人 岡野 雅人 フライ級3位
▽ボクシング部　個人 山本 典由 バンタム級3位
▽陸上競技部　個人 古結　健史　100m 6位

○全国大会出場
▽日本拳法部
第4回全国大学選抜選手権大会（5／25）
（東京都大田区）
▽柔道部
第32回全日本理工科学生柔道優勝大会（6／23）
（講道館）　3位
▽ボディビル部
第18回全国学生パワーリフティング選手権大会
（6/2）（埼玉大学）60kg 小林　靖　6位
▽弓道部
第39回全日本学生弓道選手権大会（8／1）
（神戸市）
▽洋弓部
第4回全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会（10／25）（美濃アーチェリークラブ）
▽古武道部
第14回全国大学学生古武道大会（11／2）
（金沢工大）
▽応援団
全日本学生応援団連盟本部記念祭（11／7）
（青山学院大）
▽ワンダーフォーゲル部
第32回全国学生ワンダーフォーゲル部合同ワンデリング（8／27）（野沢温泉村）

○定期発表会
▽管弦楽部
第18回定期演奏会（1／13）
（郡山市民文化センター）
▽吹奏楽部
第6回東北学生吹奏連盟合同演奏会（6／2）
▽演劇部
第5回春季公演「ほうき置場の魔女」（6／15）
（工学部）
▽機械研究会
第2回手作り自動車省燃費競技会（10／10）
（宮城県警）
▽写真部
第35回写真展（11／21）
（やまのいカルチャーセンター）

校友会報　第55号

発 行 所　日本大学工学部校友会
　　福島県郡山市田村町徳定字中河原1
　　郵便番号　963－11
　　電話番号　(0249)44－1327
　　振替口座番号　郡山5－1990
発行部数　36,000部
発 行 日　平成4年3月1日
発行者代表　会　長　半沢　忠
編集者代表　事務局長　橋本　寛